

工事安全連絡協議会の効果的な運営手法について — 広尾道路事務所における取り組み事例 —

帯広開発建設部広尾道路事務所工務課 ○坂下 孝徳
高橋 克也
計画課 守口 洋

広尾道路事務所では、今年1年、工事安全連絡協議会の効果的な運営手法を模索してきた。いかにすれば最大の効果が得られるのかがテーマであった。その過程で、構成員に対してのアンケート調査によって見えてきたものがある。また、実際の運営から明らかになったものがある。

本論は、工事安全連絡協議会の効果的な手法の検討・実践から得られた知見を報告するものである。

キーワード：事故防止、安全連絡協議会、CPDS、情報共有

1. はじめに

建設工事の実施にあたり、施工者および発注者は高品質な目的物の完成と同時に、無事故・無災害での工事の完了が強く求められている。そのため、各事業事務所においては、工事安全連絡協議会（以下、協議会という）等を組織し、定期的に労働安全の意識高揚や教育および新技術等の習得に取り組んでいる。

しかしながら、これまで協議会の運営に関して、効果的な手法や有効な取り組み内容等、検証された事例は少ない。「事故が発生しなかった」とか「安全パトロールを実施した」とか、結果があるだけで、協議会の内容のチェックがなされていたであろうか。1年を通じた活動の中で、引き続き実施すべき活動や改善すべき点が当然、洗い出されるはずである。

本論は、広尾道路事務所における協議会の運営にあたり、効果的な手法の検討・実践から得られた知見を報告するものである。

2. 基本理念

広尾道路事務所における協議会の目的は、大きく下記の2項目である。

- 1) 労働災害、交通災害および第三者への災害の防止
- 2) 建設工事のイメージアップおよび工事の円滑な推進

また、取り組み事項は下記の8項目から成る。

- 1) 労働安全衛生のための施策、環境の改善及び意識の高揚ならびに教育に関する事項
- 2) 労働災害防止及び交通災害の防止に関する事項
- 3) 安全パトロールの実施に関する事項

- 4) 公衆災害及び第三者への災害に関する事項
- 5) 建設工事のイメージアップに関する事項
- 6) 発注者・施工者双方の連絡事項および要望等の調整
- 7) 技術力向上のための各種研修会・講習会等の実施
- 8) CALS/EC 情報共有のサーバーの1本化による共同運営

これらを基本に、1年間の運営を行うことになる。

中でも「工事の円滑な推進」に関して、広尾道路事務所では特に注意を要する事項がある。

一般国道336号黄金道路の工事に関しては、工期的制約に加えて、騒音、振動および濁水処理に関する厳格な管理基準の遵守が地域住民より求められている。一つの工事のミスが全工事の工事中止という事態に及ぶリスクを保有している。

「工事の円滑な推進」のためには、情報の共有はもとより、意識の共有を図る必要があった。なぜなら、人は情報（意味）の共有ではなく、意識の共有によって動くものであるからである。

この意識の共有を図るのために、協議会活動の果たす役割は大きなものとなるであろう。

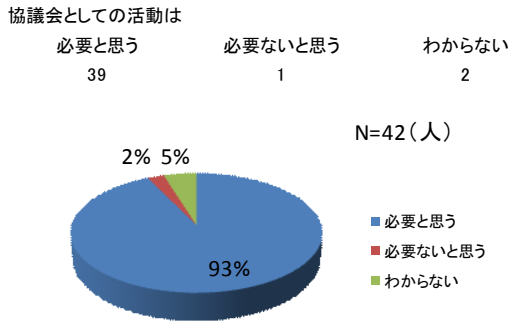
3. 運営手法の検討

3-1 意識調査

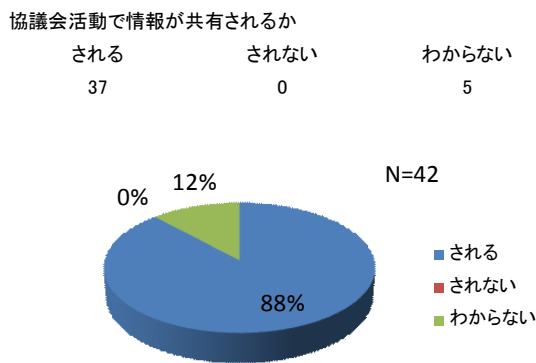
本年度の協議会運営にあたり、構成員に対してアンケート調査による意識の確認を行った。[図-1]～[図-3]

この調査から下記の事項が明らかとなった。

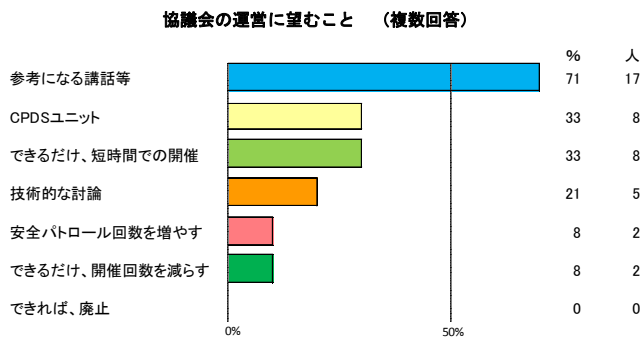
- 1) 協議会としての活動は必要と思う … 93%
- 2) 協議会活動で情報が共有される … 88%
- 3) 協議会の運営に望むこと
 - ・参考になる講話 … 71%
 - ・CPDSユニット … 33%
 - ・短時間での実施 … 33%
 - ・技術的な討論 … 21%



[図-1]



[図-2]



[図-3]

協議会活動の必要性について、極めて高い意識が確認された。既に意識の共有がなされ、高い志を持つ構成員から、運営内容を問われる状況であるともいえる。

また、「参考になる講話」を求める声が7割に達した

ことは予想外であった。このことから、協議会を有効なものとする大きな要素の一つが「参考になる講話」であると考えられる。

一方で、CPDS ユニットの求める声があった。これは、広尾町のような地方では CPDS ユニットの対象となる講習会の開催が無く、CPDS ユニットの取得のためには、都市部で開催される講習会等に参加する必要がある。移動時間も片道1時間以上を要する。ユニット取得には相当の労力を要する背景があるようである。

これらのことから、「参考になる講話」および CPDS ユニットの付加を行うことで、協議会に対するモチベーションの維持・向上が図られると思われる。

3-2 運営計画

運営計画の柱として、基本理念および意識調査の結果から、下記3項目を基本に据えた。

- 1) 安全パトロールの継続
- 2) 講話と CPDS ユニットの付加
- 3) 短時間での開催

中でも、構成員の7割が要望している「参考になる講話」をどうするかが問題である。

この、「参考になる」がポイント。参考になる話というのは、「日頃からの疑問が解消された」とか、「これは使いそうだ」とか、「なるほどそうなのか」といった共感が必要なのではないだろうか。

ところが、構成員は専門がそれぞれ違う。一般土木、道路維持、舗装およびトンネル等、分野が様々である。特定分野に特化した講話では全体の満足感はどうも得られない。

このような構成員に対して、共感が得られる「参考になる講話」をいかにするかが課題となる。

4. 運営実施

協議会は下記5項目を基本に実施した。

- 1) 実施時間は 13:00~15:30 とする。
- 2) 安全パトロールを隔月で実施する。
- 3) 講話は CPDS ユニットの付加できるタイムリーな話題とし、外部講師および主任監督員が行う。
- 4) 現場技術検討発表会を実施する。
- 5) 全体の勉強会を実施する。

従来と本年の協議会実施内容の比較について、[表-1] に示す。

前年度との違いは、実施時間を 30 分短縮し 2 時間 30 分以内としたこと。内容の大幅な見直しを行い、講話および現場技術検討発表会を実施したことである。

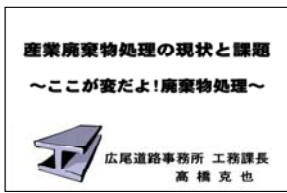
課題の講話については、交通事故が多発する時期の前には、地元警察の講話 (5 月実施) を行い、労働災害が発生しやすい時期の少し前に労働基準監督署の講話 (9 月実施) を行うなど、実施時期についても配慮した。

[表-1] 協議会実施内容比較

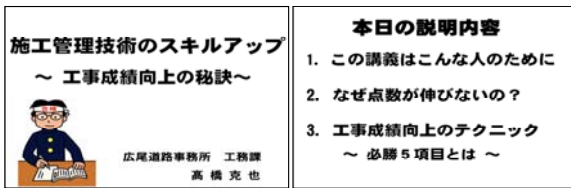
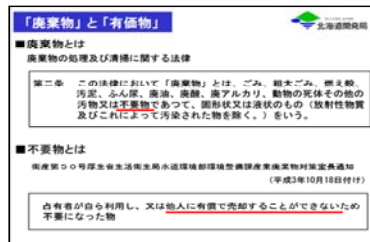
	H23	H24
開催回数	9回(4月~12月)	12回(4月~3月) 見込み
開催時間	13:00 ~ 16:00	13:00 ~ 15:30
安全パトロール	4回 12現場	5回 10現場
会議内容	事務連絡 外部講師講習 2回	事務連絡 外部講師講習 3回 主任監督員講話 10回 工事技術発表会 1回 全体勉強会 1回

※ CPDSユニットの付加は9月より実施

また、主任監督員の講話については、実体験に基づくオリジナルな講話を協議会用に作成した。適正な契約の履行、廃棄物処理および施工管理技術等、ケーススタディを交えた内容とした。講話例を [図-4]、[図-5] に示す。



[図-4]



[図-5]

安全パトロールは1現場につき30分程度の時間を取り、構成員全員で実施した。[写真-1]

尚、昨年より実施現場が減っているが、これは実施月に稼働している現場が少なかったことが影響しており、時間の短縮が原因ではない。



[写真-1]

5. 効果

事後アンケートの結果、安全パトロールの非常に高い効果が確認された。パトロール実施後の講評では、構成員よりあらゆる角度からの指摘がなされ、短時間であ

っても、多くの目で見ると効果が十分、発揮されていた。

課題であった講話についても、「参考になった」との回答を9割以上得ることができた。実施時間についても、「ちょうどよい」という8割強の評価であった。1本の講話時間を30~45分と比較的コンパクトなものとしたことが良かったようである。

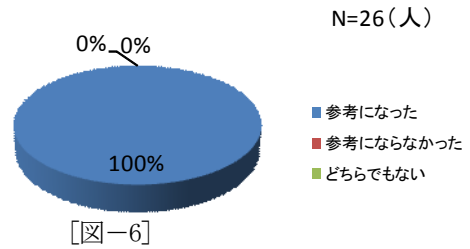
また、構成員の約8割がCPDS加入番号を持っており、協議会に伴ってCPDSユニットが得られることについて、満足度の高い結果となっていた。

現在までのところ、現場事故および「円滑な工事の推進」について問題は発生していない。特に「円滑な工事の推進」の背景には、施工各社の独自の取り組みがあることも見逃せない。濁水処理等の管理基準の遵守はもちろんであるが、海岸の清掃やゴミ処理、避難階段の補修といった地域貢献活動が積極的に実施されている。地域との良好な関係構築のためには、こういった地道な活動の必要性を再認識した。

事後アンケート結果を [図-6] ~ [図-10] に示す。

他の現場をパトロールしてみても、

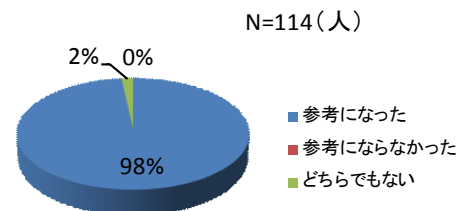
参考になった 26
参考にならなかった 0
どちらでもない 0



[図-6]

講話内容はどうでしたか?

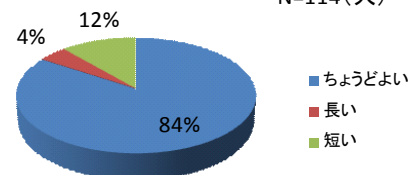
参考になった 112
参考にならなかった 0
どちらでもない 2



[図-7]

講話時間はどうでしたか?

ちょうどよい 96
長い 5
短い 13

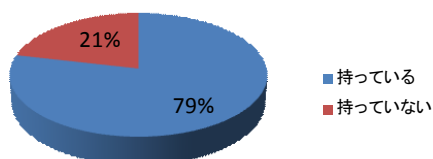


[図-8]

あなたは、CPDS加入番号を持っていますか

持っている 33
持っていない 9

N=42(人)

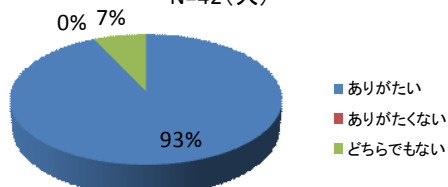


[図-9]

CPDSユニットが得られることについて

ありがたい 39
ありがたいくない 0
どちらでもない 3

N=42(人)



[図-10]

6. 今後の方針

約1年の協議会の運営を通じた実感として、協議会を有効なものとする二本柱が、安全パトロールと講話であることがわかってきた。

このうち、構成員の期待が高い講話は、毎回、その内容について苦慮するものであった。当然、それ相応の準備も必要である。

今後、他の事務所が講話を行う上での負担軽減策として、下記の2つの方法を試行した。

- 1) 近隣事務所との連携
- 2) Web コミュニケーションを利用した協議会の共有

6-1 近隣事務所との連携

11月実施の安全協議会(CPDS 3ユニット)に、近隣事務所の参加を呼びかけた。足寄および浦河道路事務所の施工者10名の参加を得られた。実施状況を[写真-2]に示す。

事後アンケートの結果から、参加者にとって参考となる講話になっていたようである。

しかし、広尾までの移動に片道1時間弱を要することが課題として残る。



[写真-2]

6-2 Web コミュニケーションを利用した協議会の共有

移動時間の課題を解消するために、Web コミュニケーション(以下、Web という)を使い、遠隔事務所と協議会を共有する試みを行った。今回、岩内道路事務所の施工者12名の協力を得た。

これは、広尾での協議会内容を岩内にWeb を使い伝送し、会議室に集合した施工者が視聴するものである。

[写真-3]の中央がLAN 設備である。



[写真-3]

前段で、Web の通信テストを行ったが、ごく簡単な作業で作動が確認できた。また、実際の講話の伝送では、途中2度、通話が途切れる事象が発生した。その際は警告音が鳴り、接続し直すことになる。しかし、1時間半の講話の中で、2回の中断であり、講話全体に影響を及ぼすものではなかった。したがって、十分実用に耐え得るものである。

事後のアンケートでも、講話は「参考になった」と、参加者全員が回答しており、通信手段による受け手側のデメリットはなかったようである。一方、発信側では、講話中の会場の反応が全くわからないという点が非常に不安であった。

尚、岩内と広尾の距離は370km。この距離を移動するとすれば、6時間を要する距離にあるが、参加者の移動に要した時間は10分程度である。移動時間の制約は解消されている。

以上のことから、Web による共有は実施可能であり、積極的な活用が望まれる。

6-3 今後の方策についての考察

現場代理人は工事現場に専任すべきであり、協議会等の時間的な拘束は極力、短くすべきものである。他事務所と連携を図るのであれば、時間的拘束の少ないWebによる方法が有効と考える。

そのためには、簡単なシステムの構築が必要である。これは、各事務所で実施予定の講話をあらかじめ登録しておき、視聴したい講話があれば、Webにより伝送してもらうというものである。掲示板機能を使えば、簡単に実施可能と考える。

今回、構成員からの要望もあり、CPDSの付加を9月から実施した。トータルで17ユニットとなった。4月から計画的に実施するのであれば、協議会単独で20ユニット/年程度は無理なく付加できる範囲であろう。

しかしながら、CPDSユニットにこだわるあまり、偏った講話内容になってしまったり、協議会として不必要な講話になってしまったりは本末転倒である。また、ユニット数にばかり目がいって、構成員の拘束時間が増えるのも考えものである。協議会は、CPDS目的の活動ではないはずであるから。

ガイドライン^{*1}によると、各企業の社内研修で上限6ユニットが認められている。協議会で14~15ユニットを加算できれば合計で推奨基準の20ユニット/年となる。したがって、地域的にユニット取得が困難な場合であっても、14~15ユニットを協議会での目標値と据えれば十分である。

逆に、あまりに過大なユニットを協議会で付加してしまうと、協議会に出席してさえいれば十分という安易な意識が生じ、社内研修を全く実施しないことも当然あり得る。それが正しい形なのだろうか。

いずれにしろ、バランス感覚を持った数値目標を各協議会で定めるのが望ましいと考える。

7. おわりに

この一年間の運営後、協議会活動を有効なものとするには、

- 1) 協議会の成功は意識の共有が第一
- 2) 安全パトロールと講話が重要
- 3) CPDSユニットはあくまで付録

という結論に至った。

謝辞： 広尾道路事務所工事安全連絡協議会の構成員の方々、遠いところを協議会に参加して頂いた足寄および浦河道路事務所関係各位、そして、恐らく初めての試みであろう協議会のWeb中継にご協力いただいた岩内道路事務所関係各位にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

[参考文献]

- ※1 継続学習制度（CPDS）のガイドライン
（社）全国土木施工管理技士会連合会